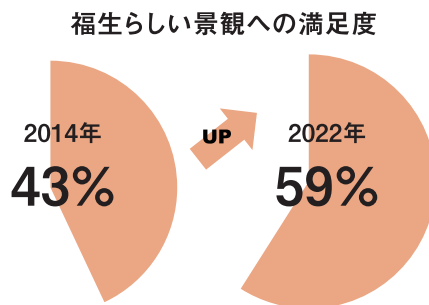


生活環境について

- ・多摩川や玉川上水沿いなどの自然と、和洋折衷の歴史を感じる街並みが共存する独特の景観があり、市民や来訪者に親しまれています。
- ・ボランティアによるまちなかの美化活動が実施されています。しかし、ごみのポイ捨てや歩行喫煙の状況に対する市民の満足度は低くなっています。
- ・一部市民から、玉川上水・熊川分水沿いに散策ルートを望む声が上がっていますが、民地を多く含むため実現可能性は低い状況です。
- ・横田基地が存在することによる航空機騒音、一部区間における道路騒音の問題が慢性化しています。



環境学習について

- ・前計画の期間中、環境活動に取り組む市民団体が数多く生まれ、個人によるボランティア活動も様々な場面で展開されるようになりました。
- ・福生市環境マネジメントシステム(F-e)では、市民を含む監査チームが行政の取組をチェックする仕組みも成熟し、定着しました。
- ・環境に関する高度な知識を持つ市民も存在しています。
- ・人口減少・高齢化の進展と、ライフスタイルや価値観の多様化の中で、これまでと同じ形で環境活動を維持することが困難になると予測されます。
- ・小中学校、高校では教科教育においてSDGsが扱われるようになっており、若い世代での環境意識・社会貢献意識は高まっていると考えられます。

SDGs:持続可能な開発目標

平成27年(2015年)9月の国連サミットで、令和12年(2030年)までの達成目標として「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」が国際目標として掲げられました。

SDGsは「誰一人取り残さない」ことを基本理念とし、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

各ゴールは環境・社会・経済の各課題に関連します。これらは相互に関連しており、統合的解決が図られるべきとされています。環境施策と関連が深いゴールは、健全な社会や活発な経済活動の基盤として位置づけられています(ウエディングケーキモデル)。

本計画では、SDGsの理念を反映して取組を進めることを強く意識しています。



健全な社会・経済のベースに豊かな環境が必要です